第 54 回宇宙安全保障部会　議事録

1．日時

令和5年 1 月 23 日（月） 14:25～15:00

2．場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局　大会議室

3．出席者

（1）委員

鈴木部会長、片岡部会長代理、石井由梨佳委員、遠藤委員、白坂委員、新谷委員、土屋委員、中須賀委員、名和委員

（2）事務局

宇宙開発戦略推進事務局　河西局長、坂口審議官、加藤参事官

（3）関係省庁

内閣官房国家安全保障局　徳永内閣審議官

外務省総合外交政策局 宇宙・海洋安全保障政策室　塚田室長

防衛省防衛政策局戦略企画課　田邊課長

4．議事録（〇意見等）

（1）議題（1）「いわゆる防衛三文書における宇宙関連課題の整理」について、国家安全保障局及び防衛省から資料1、2に基づき説明をした後、次のような議論があった。

〇鈴木部会長　国家安全保障局にお伺いしたいのですけれども、今回の国家安全保障戦略の中で私、どうしても解せないというか理解できてない部分があって1つ教えてほしいのですが、ページで言うと今日のお話の中にはなかったのですが、安全保障戦略文書の 24 ページの所に「我が国の安全保障のための情報に関する能力の強化」というのがありまして、その中に「画像情報については、情報収集衛星の機能の拡充・強化を図るとともに、内閣衛星情報センターと防衛省・自衛隊の協力・連携を強化するなどして、収集した情報の更なる効果的な活用を図る」ということが書かれているわけですが、これとコンステレーションの話とが何となくしっくりきてないという感じがするのです。

つまり、コンステレーションで収集する情報というのは恐らく画像情報だと思うのですけれども、それはここに書かれてないと何となく国家防衛戦略と防衛力整備計画で書かれていることがここに書かれてない感じがあってちぐはぐさがちょっと残るのではないかなというように私は思ったのですが、そこの所の何か御説明をいただけるとありがたいのです。

〇NSS　御指摘については承りました。今後の検討でしっかり深化していきたいと思います。

○片岡部会長代理　これからこれを非常にいい形で、本当に私は満足しているのですが、一部、これはスピード感を持ってきちっとやっていくというのがこれから非常に重要ですし、これからいろいろなスタートアップとかオールドスペースも含めて、我が国の産業基盤の育成にもつながるといった所は非常に重要だと思いますので、衛星コンステレーションというのは企業にやはり先見性を与えないとならないといった所があるので、衛星コンステレーションは何かイメージするとみんなイメージが様々なので、規模感とか、それから、光学なのか、SAR なのか、ELINT とか、そういうやつをやっていくとか、こういうのをやはりできれば宇宙基本計画の中の工程表に書ければいいのですが、難しいにしても詰まったら載せていくという作業というのがやはり極めて重要だというように、いろいろなこれから安全保障、防衛省の方で宇宙作戦指揮統制システムとかマルチクラウドのシステムとか入ってくるというように思いますので、是非書ける範囲で宇宙基本計画なり宇宙安全保障構想の中へ入れていくというのが重要になると思いますので、可能な限り記入していただくようにお願いしたいと思います。

○防衛省　宇宙安全保障構想の内容につきましては、防衛省もしっかりと内閣府、それから、内閣官房と連携して作り上げていきたいと考えております。

情報収集コンステの記述の密度につきましては、一つは、まだ4ページの記載にありますように、「具体的には、米国との連携を強化するとともに、民間衛星の利用等を始めとする各種取組によって補完しつつ」という形容が加わっておりまして、現時点では、衛星コンステレーションの情報収集についてはこれでやるというのがまだ確定できてないというところがございますので、どこまで具体的に宇宙安保構想に書けるかについては引き続き検討させていただければと考えております。

○片岡部会長代理　可能な範囲で開示していくというのはスタートアップを使うとかいろいろな所で、当然海外のメーカーも使ったり多分いろいろすると思いますので、是非その辺、オープンにできる所はできる限りオープンにしていったほうがいいような気がしますので、引き続きよろしくお願いします。

○遠藤委員　この3文書、すばらしいものが出来上がったのですが、やはり民間に間口が広がっていくという状況を鑑みますと、これまで構造を持ってない企業、組織体がこういう防衛産業の方に参加していくということになっていく中で、国のセキュリティークリアランスができるということは政治的な難易度があり、時間も掛かるし、実現可能かどうなのか分からない状況の中で、この機微性の確保ができるようなシステムを是非防衛省の方でアップデートしていただくとか、また新しく構築する仕組みをつくっていただきたいというように是非思っております。御検討いただきたいというように思っております。

それは民間企業だけではなくて、国立研究開発法人、あとは天文台も持っておりますので、大学機構、そういったところも含めて、そういった整備というものがもう一度必要になってくるのではないかなというように思っております。カジノに数％でも出資しようとかカジノに勤めようとすると、その人の犯罪歴とか全部組織の中全員が調べられるというような厳しい仕組みがございます。それは防衛産業となるとそうではないというようになると余りにも偏りがあるのかなというように思いますので、独自のシステムもできるのかなというように思っております。

○防衛省　御指摘、非常に重要な点と思っております。これは最終的には官民間の契約で縛るというところに行き着く議論になってまいります。防衛省が民間企業とこういう内容の製造請負を契約するといった場合には、防衛省側が提示する情報セキュリティー特約というのを通常の契約書に追加する形で相手にそ

れを守ってもらうということ。その情報セキュリティー特約を守れないとそれは当然契約上のペナルティーが課されるという基本的な立て付けがございます。逆に言うと、それ以上のものを調達という、国も優先的な優越的な立場でないところから、相手に規制をするというのは現状ではなかなか難しい所が一番の根っこの所ではないかというように思っております。ただ、政府全体のクリアランスの議論というところが今後進展していけば、ある程度改善していく所はあるのではないかというところは考えています。

○名和委員　いろいろな能力の向上、獲得とあるのですが、以前から防衛省の調達で下働きする中で、モノの調達にかなり偏っているという印象があります。箱物といいますか、システムの導入の取組はすばらしいものがいくつもあるのですが、運用構想なくシステムを導入することが多々調達で見られていまして、民間企業が運用構想を作って納品というのがあるような印象を持っています。運用構想は、自衛官自らが作り、それを調達に生かしていただきたいと思います。現実にはまだ決まってないのだけれども、モノを調達して、そこから決めるようなことがありますと、運用構想を民間が作って民間が漏らすような形になりかねません。

もう一つ、人事なのですが、サイバーでは、成熟した方が他所に異動したり、知識や経験の乏しい方が入ってきてなかなか能力が向上しないことが、実力組織で共通している課題だと伺います。人事部門で調整は厳しいかもしれませんが、宇宙領域においては、このような人事慣行は非常に良くないと思います。人事上の配慮もこの能力向上に含めていただきたいと考えております。

○防衛省　一般的に防衛省の防衛力整備の在り方として民間企業に依存している部分があるということ、御指摘のような事例も私もずばりこういう事例かなというのは今、思い当たらないのですけれども、委員の御指摘のような事例も恐らくあるのだと思います。そこはしっかり防衛省が自らやっていかなければいけない部分だと理解をしております。

他方、民間企業からそういった情報が流出するというところにつきましては、やはり情報セキュリティー上の契約関係を基盤としましてしっかり防衛産業にサイバー窃取のようなことができないようなセキュリティー体制は取ってもらうといったところも非常に重要だと思っておりますので、その辺は今回の防衛力整備計画の中でも極めて重視しているところではございます。

それから、人材の流出というところ、宇宙についてはまだ流出するほど人材がいないのではないかというところでございますので、今後、しっかりとまずは中で育ててやっていくというところでしっかり取り組ませていただければと思っております。

○名和委員　諸外国の軍組織、防衛組織の方は防衛企業なり契約代表に圧力ではなく、発生してしまったインシデントの被害を局限させるような支援にかなりリソースとコストを掛けています。日本は中間管理職が厳しく言われて下に押し付け過ぎたことにより、ヒューマンエラーに起因する PC 紛失やアカウントを乗っ取りが発生しています。上意下達的なプレッシャーだけではなく、もう少し優しく漏えいしないようにという支援策を拡張していただく方が、良いのではないかと思います。他国において成功事例がありますので、参考にしていただいて、飴と鞭みたいな感じでやっていただければと思っています。

○白坂委員　今までの流れからもあるとおり、やはりセキュリティー上の問題というのはどうしても考えなければいけない。一方で、やはりもう一つあるのは、宇宙の技術の知識というのが意外と日本に散在しているといいますか、要は、JAXA は JAXA の作る衛星のことはよく分かっているのですが、では、大学がやっ

ているような技術ですとか超小型の話がどれぐらい分かっているかというと、そこは余りやはりやられてきてないという意味で、そういった意味でどうしても関係機関とのコミュニケーションという所ですごいしっかりした人たちだけではない所とコミュニケーションを取らなければいけなくなると思うのですよね。

なので、何を出してよくて、何でもかんでも駄目ではないはずですね。それは秘情報とそうでないものまでちゃんと管理されるようにやはりレベル感があるので、このレベル感と、あとはちゃんと情報を得て、今、世の中で何が起きているかということがきちんと分かる。やはりこの仕組みをきちんとつくっていく中で最新の情報も得ながら、では、実際、それをつくるとなるとどういう体制でやっていくか。

これも解決策は幾つかあると正直思っているのですけれども、その辺りのやり方というのを少し工夫するということをやらないと、一番私も懸念しているのは、片岡さんのおっしゃった実はスピード感でして、とにかくこれはスピードが要るときに昔ながらのやり方だけではどうしても時間が掛かる。では、全部買ってくるかというと、今度は買ってくることをやってしまうと知見が全くたまらない所が出てくる。

なので、これをうまくバランスを取っていかなければいけないので、ちょっと工夫は必要ではあるのですけれども、何ができるかということを決めていくというか考えていくということができればいいかなと思っています。何人かの関係者で集まってそういう場をうまく作って、どういうメカニズムでやっていけばアンドが取れていくかみたいなことが継続的にできるようなことがあれば少し解決が進んでいって、より早く活動が進められるのではないかなというように思っていますので、是非そういった面も御検討いただければというように思います。

○NSS　国家安全保障戦略の本文の 23 ページを見ていただきたいのですが、宇宙の次のエ項に技術力の向上と研究開発成果が記載されています。その中で、今後については、防衛省の意見を踏まえた研究開発ニーズと関係省庁が有する技術シーズをしっかり合致させる、当該事業を実施していくための政府横断的な仕組みを創設する。正に今、先生が言われたように、民間のイノベーションをしっかり最先端の技術を取り込んで、それを防衛に生かしていくということが記載されております。これは宇宙に限らず、全ての分野においてですけれども、ここは政府横断的な仕組みを創設ということで、国家安全保障局が主体となってやっていくことになりますので、おっしゃっていただいたスピード感を生かしてしっかりやっていくことにしております。

○鈴木部会長　防衛省からの御説明の3ページの所で太字で書いてある衛星コンステレーションによるニアリアルタイムの情報収集ということになると、これはやはりコンステレーション、いわゆる NDSA のようなトランスポートレイヤーというのが必要になってくるのではないかというように思われるのですが、そういった所まで視野に入れてこれはニアリアルタイムというように書かれているのか、それとも、こうだったらいいなという願望として書いているのか、どういうように解釈したらいいのかというのだけちょっとお伺いしたいのです。

○防衛省　防衛省の資料の 10 ページに、参考で付けさせていただいているものの中にあるのですけれども、まずニアリアルタイムとここで書いている趣旨は、それほどリジットなことを言っているのではなく、時間分解能を細かくして地上の目標がどういう状況にあるのかということを継続的に見ていくといったことをイメージしているものだと私としては理解しております。

一方、トランスポートレイヤーのようなファンクションが必要ではないかというのは御指摘のとおりかと思っ

ております。10 ページの右下のポンチ絵でございますけれども、この中には衛星で取得した情報をリアルタイムで処置し、高速で伝送するための技術実証ということで、オンボードコンピューティング、それから、衛星間の光通信といったことを技術実証するという事業にお金を付けるということは既に決まっておりまして、こういう技術が実証されたら、それは左側の情報収集コンステレーションにも反映していくといったことで今、考えておるところでございます。

○鈴木部会長　分かりました。

以上